Book Preview

富山高校図書館　2026.2

『　殿様は「明治」をどう生きたのか　』　河合 敦【著】

版籍奉還、廃藩置県によって土地を奪われ、支配者の地位から転落した元殿様たち。戊辰戦争で勝者となり新政府の要職も務めた土佐藩主・山内容堂は新政府への鬱憤から酒浸りに。徳川宗家十六代は天皇に信頼される大政治家に。朝敵となった会津藩主・松平容保は日光東照宮の宮司となりひっそりと生きた。多様な元殿様の「その後」のなかから、特に波瀾万丈な人生を送った十四人の元殿様の知られざる生き様を、人気歴史研究家の河合敦先生が紹介する。

『　数の辞典　』　澤 宏司【著】

現代では「数」を見ない日はありません。朝起きたら時計を見て、平均体重や平均年収の話題に一喜一憂し、暗証番号を入力してショッピングを楽しみ、「予測できない」スポーツの試合に胸を熱くします。本書は、0や1などの数字から、正負の数、三角関数、微分・積分、非ユークリッド幾何学、コンピュータ、現代の未解決問題に至るまで、私たちの生活を支える「数」にまつわる221項目を辞典にまとめました。数学をまなぶ楽しみは、数学者だけでなく、私たち１人１人にあります。少しだけ背伸びをして新しい知識に触れてみると時間を経て、ひらめく瞬間が訪れるかもしれません。

『　ＡＩを美学する　』　吉岡 洋【著】

なぜ私たちはＡＩの活躍を目にしたとき、楽しさばかりでなく「不気味さ」を感じてしまうのだろうか？　私たちにとってＡＩとは何なのだろうか？　――ＡＩと暮らすことが当たり前となった今、「ＡＩとは何か」を美学の視点から問いかける。『2001年宇宙の旅』のHAL9000、怪物フランケンシュタイン、映画の中のゾンビ、『火の鳥』のロボットたち……誰もがおなじみのフィクションに登場する「人間でない存在」から、「シンギュラリティ」や生成ＡＩを利用したアートまで、カント哲学や実存主義を手がかりにＡＩの「面白さ」を考える１冊。

『　東大卒、じいちゃんの田んぼを継ぐ　』　米利休【著】

「じいちゃんの米を守りたい」廃業寸前の米農家を継いだ東大卒の26歳。SNSアカウント開設後、3カ月で総フォロワー数が20万人を突破。かつて、農業経営に苦しむ祖父の姿を見ていたから、「農家にはならない」と決意して、東大へ進学した。将来は大企業に就職して、安定した道へ進みたいと考えていた。そんな矢先、実家の農業が廃業の危機にあることを知った。　―じいちゃんの米づくりが、絶えてしまう。農業を継ぐ条件は年収15万。農業経験はゼロ。でも、諦めたくない。じいちゃんの米を守りたい。熱い思いがSNSを駆け巡り、やがて日本の食卓を、農業の未来を変えていく。

『　このオムライスに、付加価値をつけてください　』　柿内 尚文【著】

本書では、付加価値を作るフレームワークとその活用法や事例などを紹介しながら、誰でも付加価値がつくれて、それをきちんと伝えられるための方法を紹介します。上手くいく人といかない人の違いは「付加価値づくり」にあります。多くの具体例とイラスト図解で付加価値の正体をお見せします。マーケティングでも、営業でも、開発でも、人事でも、総務でも、多くの仕事に「付加価値づくり」が必要になっています。まさに、「一生あなたの役に立つ本」。「自分の強みは何か」に悩んでいるビジネスパーソンも必読！